

少年メッセージ2023 金賞（最優秀賞）

タイトル「理解すること」

日高川町立丹生中学校 2年 川口 瑞月

皆さんは、このマークを見たことがありますか。これは、「ヘルプマーク」と言います。私が小学六年生の頃、偶然ネットで見つけ、「これは知っておきたい」と思い、調べ始めました。調べてみると、このマークは「外見からは分からないけれど援助や配慮を必要としている人に交付されるもの」と書かれていました。ヘルプマークの役割は主に「周囲の方に配慮が必要だと知らせる」、「理解してほしい、認めてほしい」の二つがあります。また、ヘルプマークの説明では、身につけた方がいたら周りはどうすればよいかということも示されています。「電車やバスでは席をお譲りください」「駅や店等では、見守る、声をかけるなどの配慮をお願いします」というものです。急に声をかけたらびっくりする方もいるし、声をかける側にも勇気がいると思います。一見誰にでもできそうな簡単なことですが、実行するのは難しいと感じました。

それからしばらくして、私は母に聞きました。

「ヘルプマークって知ってる？」

「知ってるよ。だって、あんたの弟持ってるやん。」「ほら、これ……。」

「えっ」

私は驚きました。今まで遠い存在だと思っていたヘルプマークがこんな近くにあるなんて……。しかも弟が持っているとは。と同時に、今まで弟に無茶を言っている私の姿が浮かんできました。

私の弟は、自閉症スペクトラムという発達障がいを持っています。弟はじっとしていたり、大勢の人に見られたりするのが苦手です。パニックを起こ

すことがあります。そんな泣いて暴れる彼を私は落ち着かせることはできません。幼い頃の私は、弟が楽しく遊んでいるのを「うるさい」と言ってやめさせる等、自分のためだけに弟を注意していたように思います。しかし、母は違います。母には彼を納得させる力があります。弟は母の不思議と安心感のある、優しい腕の中でいつの間にか泣き止んでいます。こんな母のように私はなりたいたいと思います。

中学二年生になった今、私には一つの夢ができました。それは、支援学校の先生になることです。そのためには、一人ひとりの個性を理解してよい方法を見つけ出せる力が必要だと思います。弟は、決められた手伝いを確実にすることができます。優れた計算力や記憶力も持っています。このような人の良いところをその人に気づかせて伸ばすのも大切なことです。まずは身近な人を理解することからはじめていきたいです。

私はヘルプマークから、弟に対する思いや理解の仕方など、たくさんのことを考えさせられました。以前は、家で弟が騒ぐ音や大きな声にイライラしていた私。楽しいことばかりしていてずるいと思っていた私。でも、今は違います。弟にとってはこれがありのままの姿なんだ、当たり前のことなんだ。当たりの基準は弟「だけ」とは限らない。みんな違う。だから私は周りの人を認めるように、弟のありのままを認める、これが私なりの考え方です。このように思うと弟の言動に腹を立てたり恥ずかしがったりすることでたまっていた怒りが、不思議と抜けていくように感じました。迷ったときはこの考え方を思い出して自分の心を変えたいです。

いつ、どこで見かけるか分からないヘルプマーク。何をすればよいか、相手が何を必要としているかを考え、正しく理解することが大切だと思います。

弟のはしゃいでいる姿、楽しそうに笑っている姿。私はこんな彼を見ると、自然と元気が湧いてきます。弟がくれる力で私も明るく前向きに歩んでいきます。弟よ、いつもありがとう。